

解答解説

1

解答

- 問1 骨角器 問2 神聖文字（ヒエログリフ） 問3 ア・ウ（順不同）
 問4 エ 問5 ①・ニネヴェ 問6 バビロン捕囚 問7 ヤハウエ
 問8 暗黒時代

2

解答

- 問1 楔形文字 問2 サルゴン1世 問3 ヒッタイト
 問4 ヘロドトス 問5 クフ王 問6 ウ
 問7 都のテーベの神官勢力を抑えるため、唯一神アトンへの信仰を強制し、テル＝エル＝アマルナに遷都した。（48字）

解説

- 問1 シュメール人は、絵文字をもとに**楔形文字**を創出した。楔形文字は粘土板に尖った^{とが}葦筆や金属を用いて刻まれ、シュメール人のみならず、古代オリエントの諸民族の間で広く用いられた。
- 問2 セム語系のアッカド人は、各地のシュメール人都市国家を征服し、前24世紀頃、**サルゴン1世**の下で史上初めてメソポタミアを統一した王国を建てた。アッカド人は広大な領域に支配を及ぼしたが、まもなく衰退し、一時的にシュメール人の支配が復活した。
- 問3 古バビロニア王国（バビロン第1王朝）は、最盛期を築いた第6代のハンムラビ王（位前1792頃～前1750頃）の死後、急速に衰退し、前16世紀初め頃に小アジアからメソポタミアに侵入してきた**ヒッタイト**によって滅ぼされた。ヒッタイトは馬や戦車を使用していたほか、鉄製武器を最初に使用したことでも知られる。
- 問4 前5世紀に活躍したギリシアの歴史家**ヘロドトス**は、著書『歴史』の中で、エジプト文明がナイル川流域に形成されたことを“エジプトはナイルのたまもの”と表現した。ヘロドトスの『歴史』は、アケメネス朝とギリシア諸ポリスの間に起こったペルシア戦争（前500～前449）について記した書物で、エジプトやスキタイなどの民族誌的記述も含まれている。

問5 古王国時代のエジプトでは、ファラオと呼ばれた王が権力を誇示するため、自分の墓としてピラミッドやスフィンクスを建設した。とくにギザにある3大ピラミッドが有名で、そのなかでも最大のピラミッドは**クフ王**のものであるとされている。

▼ギザのピラミッドとスフィンクス



問6 中王国時代の末期以後、エジプトにはシリア方面から**ヒクソス**と呼ばれる遊牧民族が侵入した。ヒクソスは一時エジプトを支配したが、前16世紀中頃に追放され、代わって新王国がエジプトを支配した。なお、**ア**のミタンニは前15～前14世紀にメソポタミア北部からシリアにかけての一带を支配した王国、**イ**のカッシート人は前16～前12世紀頃にメソポタミア南部を支配した民族、**エ**の“**海の民**”は前13世紀末から前12世紀初め頃にかけて東地中海一帯に侵入した諸民族の総称である。

問7 新王国時代のエジプトでは、都の**テーベ**の守護神**アモン**と太陽神**ラー**が同一視されて**アモン＝ラー**として篤く信仰され、テーベの神官勢力が政治に介入して王と対立するようになっていた。こうした中、前14世紀頃に在位した**アメンホテプ4世**は、神官勢力を抑えようとはかり、**アモン＝ラー**を含む従来の神々の信仰を禁止して、**唯一神アトンを信仰する一神教を強制**し、自ら**イクナートン**（“アトンに愛される者”の意）と改名した。また、都をテーベから**テル＝エル＝アマルナ**（アマルナ）に遷した。しかし、アメンホテプ4世の死後これらの改革は挫折した。

解答の組立て

アメンホテプ4世の事績として特筆すべき2点、「**唯一神アトンへの信仰を強制した**」ことと「**テル＝エル＝アマルナに遷都した**」ことが挙げられればよい。さらに、制限字数を満たすために、改革を行うに至った背景として、「**テーベの神官勢力を抑えるため**」といったことなど、関連する事項を盛り込もう。

なお、「**アマルナ美術が成立した**」といった改革の影響を取り上げることもできるが、本問では「**改革**」そのものを説明することが求められているので、改革の背景と比べると優先度は低くなると考えてほしい。

3

解答

- A 問1 アーリヤ 問2 ウパニシャッド哲学 問3 『リグ=ヴェーダ』
問4 ガウタマ=シッダールタ (仏陀) 問5 ウ
- B 問6 仰韶文化 問7 殷墟 問8 宗法
- C 問9 テノチティラン 問10 マヤ 問11 マチュ=ピチュ
問12 キープ (結縄)

解説

- A 問1 中央アジアを原住地とするインド=ヨーロッパ語系の**アーリヤ人**は、インダス文明が衰退した後、前1500年頃からカイバル峠を越えて北西インドのパンジャブ地方に進出した。インドに入ったアーリヤ人は、先住民との融合を進め、牧畜や農耕を営むようになった。
- 問2 バラモン教が祭式中心の形式主義に陥ると、これに対する批判が起こり、その中で内面における思索を重んじる**ウパニシャッド哲学**が形成された。ウパニシャッド哲学では、生き物は現世の行いである業(カルマ)によって来世の姿が決められ、何度も生死を繰り返すという輪廻転生りんねてんせいが説かれた。
- 問3 アーリヤ人は神々への賛歌や儀礼などをまとめ、ヴェーダと総称される多数の文献を残した。ヴェーダはバラモン教の根本的な聖典で、なかでも神々への賛歌をまとめた『**リグ=ヴェーダ**』は、前1200～前1000年頃に成立したとされる最古のヴェーダであり、最も重要なものと位置付けられた。
- 問4 シャカ族出身の**ガウタマ=シッダールタ**は、ブッダガヤの菩提樹ぼだいじゆの下で悟りを開いてブッダ(仏陀、悟った者)となり、**仏教**を開いた。ガウタマ=シッダールタは、八正道はっしょうどうと呼ばれる方法に基づく修行を実践することで、人生における苦しみの原因となる煩惱ぼんのうから解放されて解脱し、心の安らぎが得られると説いた。また、ヴァルナを否定し、人間の平等やあらゆる生き物に対する慈悲を説いた。このような仏教の教えは、クシャトリアやヴァイシャからの支持を受けた。
- 問5 X(誤) **梵我一如**を中心思想としたのは、ウパニシャッド哲学である。ウパニシャッド哲学は、宇宙の根本原理であるブラフマン(梵)ほんと個人の本質であるアートマン(我)がが究極的には一体である(梵我一如)ほんがいちによと悟ることで輪廻から解き放たれて解脱し、永遠の安らぎの境地に至ることができると説いた。
- Y(正) ジャイナ教を開いた**ヴァルダマナ**は、解脱するため、**不殺生**ふせつじやうなどの戒律を厳格に守り、**苦行**を実践することを説いた。また、ジャイナ教はバラモン教の聖典とその聖職者であるバラモンの権威を否定し、とくに商人を中心とするヴァイシャから支持された。一方で、厳格な不殺生主義を唱えたため、農民の信者は少なかった。

B 問6 前5000年頃から前3000年頃にかけて黄河中流域で栄えた文化は、河南省の仰韶村^{ヤンシャオ}で遺跡が発見されたことから、**仰韶文化**と呼ばれる。この文化が栄えた時代は新石器時代に当たり、磨製石器が用いられ、家畜の飼育が行われていた。また、仰韶文化の遺跡からは赤や白などの彩色を施した素焼きの土器である**彩陶**が出土しており、このことに因み、仰韶文化は彩陶文化とも称される。

問7 現在、実在が確認できていない夏を除くと、中国最古の王朝は前16世紀頃に成立した**殷**である。殷は、後20世紀初めに現在の河南省安陽市で殷代後期の都の遺跡である**殷墟**が発掘されたことによって実在が証明された。殷墟では、**甲骨文字**を刻んだ亀甲や獣骨、多数の殉葬の跡なども発見された。

問8 周の**封建制度**における主従関係は、血縁に基づく民族的な関係であった。こうした関係の下、**宗族**と呼ばれる同姓の父系親族集団の結びつきを維持するために重要な役割を果たしていたのが、**宗法**である。宗法は、祖先の祭祀^{さいし}の方法や宗族内における身分秩序などを定めたものであった。

C 問9 12世紀頃からメキシコ高原に進出したアステカ人は、14世紀にテスココ湖上の島に**テノチティトラン**を建設し、ここを都として王国を建てた。アステカ王国は16世紀にスペイン人征服者のコルテスに征服され、テノチティトランも破壊された。

問10 ユカタン半島では、前1000年頃から後16世紀にかけて、**マヤ文明**が展開した。マヤ文明では精密な暦法や二十進法が採用され、ピラミッド状神殿や**マヤ文字**などが作られた。マヤ文明は9世紀頃にユカタン半島の南部から北部へ中心を移し、16世紀にはスペイン人征服者に滅ぼされた。

問11 クスコ北方の**マチュ = ピチュ**は、15世紀半ばに建てられたとされるインカ帝国の離宮の遺跡である。スペイン人征服者による破壊を逃れ、1911年に発見されたこの遺跡からは、神殿や住居などの区画、整備された水路などを見ることができる。

問12 インカ帝国では文字が使用されず、縄の結び方によって情報を伝達する**キープ**（結縄）と呼ばれる記録法が用いられた。この方法により人口や穀物の貯蔵量などの記録や統計がとられていたとされる。

▼アメリカ古代文明の展開

メキシコ高原	ユカタン半島	アンデス地方
オルメカ文明の成立 (前1200年頃)		チャビン文化の成立 (前1000年頃)
テオティワカン文明の成立 (前1世紀)	マヤ文明の成立 (前1000年頃)	
アステカ王国の成立 (後14世紀)		インカ帝国の成立 (後15世紀頃)
アステカ王国の滅亡 (1521年)	マヤ文明の滅亡 (後16世紀)	インカ帝国の滅亡 (1533年)